

2025年度
短期留学成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	留学先	期間
3	声楽専攻	ハダースフィールド大学	2025年9月～2026年6月
1. 実施概要(具体的に) 大学の英国認定留学を利用し、University of Huddersfieldに2セメスター、一年弱留学した。留学先では、Music Performanceコースに所属し、週一度一時間のレッスンを含む様々な授業を受講した。特に印象的な授業は“Applied for Music Culture”で、自分が関心のある音楽テーマについて、科学や文化、環境など様々な側面から調査する自由度の高い内容だった。私はRossiniのアリアの適切なバリエーションについて調べ、録音比較やRossiniの自筆楽譜の調査、あらゆる言語の資料を閲覧し、結論を導くことに大きな達成感のある授業だった。また専攻関係なく、Music Businessの授業が必修となっており、音楽の文化保護の役割だけではなく、経済的な面や、キャリアの築き方を具体的に学習することができた。			
2. 留学を通じて自身が得た成果 二回行われた合唱のコンサートでは、ソロパートのオーディションに合格し、特に春のFauréのRequiemのコンサートでは“Pie Jesu”をオーケストラの伴奏で歌うことができ、大変恵まれた経験となった。音楽という共通言語が果たす役割の大きさを感じ、コンサートの後、クラスメートやお客様がたくさん話しかけてくれたことはとても印象的な思い出になり、自分のことを誰も知らない環境で、音楽で自分のことを知ってもらい、音楽によって人とつながるすばらしさを再認識した。校内で行われた、Emma Morwood先生のマスタークラスも受講することができた。また日本ではプレミアチケットになるであろう歌手を学生料金で聞くことができたのも勉強になった。こういった具体的な経験以外にも、一年間海外で一人暮らしをできた、という経験自体が自信につながり、これからの挑戦を後押ししてくれる重要な要素となると感じた。			
3. 反省点 単語や、使うことができる言葉が多いほど、やはり人との距離感は縮まりやすと感じた。自分から話しかけていくことの大切さ。イギリスの学生はシャイな子が多く、自分からガンガン向かっていく英語力と自信がもっとあれば、と思うことが時々あった。			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等) 体温計や風邪薬、のどの調子をいつも整えるために使っているものを絶対にもっていった方がいい。ついた最初のころが疲れや慣れない環境で風邪をひきやすく、よくわからない立地で体調の悪い中薬を探すのは大変なので、いつも使い慣れている薬を数回分は持っていくことが必要だと思った。着いたらすぐ、大学の病院に早めに登録し、NHS番号を手に入れておくといい。登録には数日かかり、体調が悪くなってからやワクチンを無償で受けるには遅いので。逆に日本食はパックご飯とふりかけ、お味噌汁だけをもっていけば十分。現地には日本食スーパーやオンラインスーパーがあり、最初の生活を整える数日分の食事があれば十分だと思う。			